

お米さんありがとう

大村市立竹松小学校 六年 川上 朱莉

去年の十月、私がずっと待ち望んでいた妹が生まれた。十ヶ月たった今、妹は上の歯が二本、下の歯が二本生えて、少し軟めしとやわらかく煮た野菜や肉、魚などのごはんをおいしそうに食べている。

生まれて、五ヶ月ほどたった三月下旬から妹の離乳食が始まった。一番最初は、おかゆをこした汁で、これはおもゆと言うらしい。

私もスプーン一杯味見をした。何の味もしない。正直言って水道水よりまじかた。妹は母乳やミルクを飲む時と少し違う変な顔をして飲み込んで、はもつと欲しいと口を開けた。

それから、十倍がゆになった。これは、米一に対して水十でたいたおかゆで好めはそれをつぶして食べていた。まるで、工作で使うのりを薄めたようなものだった。妹は、おもゆの時より、満足そうな顔をした。私はこの十倍がゆのどこがおいしいのだろうと思っ

そして、舌ですぐつぶれるようなかたさのおかゆになった。五倍がゆといつて、これは米一に対して水五の割合で炊いたごはんでは、お米の粒も分かるし、味もしつかりしていた。祖母がおかゆのことを「おかゆさん」とさしんづけて言うことがある。おかゆは、米が少なくて、お湯を足すことで、空腹が満たされる貴重な食料だったかららしい。

妹の離乳食を作る母を見て、私や弟が赤ちゃんなの時もこうして作ってくれていたのだと初めて分かった。そして、お米は私たちが赤ちゃんの時からずつとお腹を満たしてくれる大切な食料だと改めて思った。

以前、私は棚田のオーナーになってお米作りの体験をしたことがある。田植えの前から稲刈りまでいろいろな作業や工程があって、たくさんのお米作りの時間と手間がかかることが分かった。それから、お米作りの大変さや、ありがたさを知って、絶対ごはん粒は一粒も残さないように食べることを決めている。

残念なこと、五島の祖父母は高れい者になつて、お米作りをやめる事になつた。ずつと、私の家のお米は五島から送つてもらつていたのに、それがストップした。おじいちゃん、おばあちゃん今までおいしいお米を作つてくれてありがとう。おつかれ様でした。

日本全国でお米を作る人が高れい者になつて、お米作りをやめ雑草だらけになつて、田んぼが多くなつたと聞く。お米が不安しているというニュースも聞いたことがある。昔

い人たちが楽しんでお米作りができるように何か方法がないのかなあ。また棚田オーナーになつて米作りを少しでも貢献したいと思う。

妹が生まれ、お米が初めて食べる食料で、それからずつと私たちの食生活を支えてくれている事に改めて気付いた。妹が普通の固さのお米を食べられるようになったら妹と一緒におにぎりを作り、食べられることに感謝しながらおいしく食べたいと思う。